

予算決算常任委員会総括質疑

◆会派自民◆



東浩一 委員

◆原油価格高騰対策農業者支援費

Q 支援費(500万円)の内容及び効果については。

A ビニールハウスの暖房設備の新設、更新費用の支援で、農家の生産意欲の向上と持続可能な農業につながるものである。

Q 支援費対象者については。

A 主な対象はトマトとルビローマンの栽培ビニールハウス、約300ハウスと想定している。

Q ほかの園芸農家への支援は考えているのか。

A 今後、いろいろな声を聞きながら行いたい。

Q 肥料価格高騰は、JA小松市の

予約水稲肥料での推定で、約7千万円の農家負担増となる。小松の農業、農家



を守り、未来の子供たちへ学校給食などを含め地元産の安心、安全な食の継続した提供を守るために価格高騰への支援については。

A 農林水産省は6月下旬から全国各地で生産資材・原材料高騰関連対策説明会の開催を決定した。情報収集に努めるとともに、引き続きJA小松市など関係機関と連携を取りながら、必要な施策を適時適切に考えていく。

◆尾小屋鉱山資料館管理運営費

Q 資料館の規模、運営状況については。

A 昭和59年県により開館され、県内唯一の旧の坑道を利用した展示施設尾小屋マインロードを小松市が開設、全長約550メートル、資料館施設は延べ床面積600平米である。

近年の入館者数は、おおむね年間5千人前後、コロナ禍で3千人前後と減少したが、今は回復傾向にある。

Q 今回の資料館管理運営費(780万円)の内容については。

A 資料館の空調施設を新設、増築して、学習環境及び快適な空間へ整備する費用である。

Q マインロードは、昨年5月一部損壊があり、同年の11月には一部開通し、調査を行い、速やかな復旧を目指す。



尾小屋マインロード

答弁された。復旧は二年後の開館40周年に間に合うよう、早期の調査費の計上及び完全復旧について。

A 前回より、マインロードの全面公開に向けた質問をいただいております。市の考え方は坑道全体の安全確認が大前提であり、徹底的な調査が必要である。専門の機関、事業者を探すところから始めており関係者と協議調整を行い、必要となる財源確保に努めていく。

Q この資料館を含む西尾地区全体を一大自然公園として、地域全体が観光資源をコンセプトに、自然豊かな地域を後世に残す取組など、今後の地域活用方策について所感を伺う。

A 尾小屋鉱山資料館とマインロードは、小松市にとって、自然、文化、産業に関する資料を展示する、非常に価値のある施設である。また、7月14日には近隣でオープン観音下西尾がオープンし、オープンの暁には

ぜひ御利用いただければとお願いしたい。鉱山資料館等のリニューアルはもちろん大事なことはあるが、それが地域活性化の切り札的発想ではなく、小松市全体でワンランク上の生活空間あふれる持続可能な地域づくりに励みたいと考えている。

◆自民党こまつ◆



吉村範明 委員

◆学校給食物価高騰対策費

Q 1食当たりの給食費の詳細は。

A 食料価格の高騰については、学校給食にも影響を及ぼしているが、栄養バランスや量を確保しながら、増額分を保護者に求めないため、その対策として、学校給食を運営している小松市学校給食会へ今年度の高騰影響額を助成する。

学校給食で使用する食材は、年間での契約、学期ごとの契約、時価によって調達している。年間での契約物品は価格が決まっているため、学期ごとの時価での調達物品について影響額を算定すると、1食当たり小学校では10円から16円、中学校では10円から20円増加すると見込み、年間で約5%程度の影

響額を想定している。

Q 影響見込み額は。

A 全体として2、000万円と考
え、小学校で児童約5、700
人分として1、240万円、中学校で
生徒約2、900人分として760万
円と見込んでいる。

Q 高騰している食品は。

A 産地の気象不順、高温や雨不足
などにより野菜の価格が上昇し
ている。給食で用量が多いジャガイ
モは昨年同時期と比較して約10%、タ
マネギは約2倍、そのほか食用油につ
いても、生産国の不作や円安などによ
り、約60%値上がりしている。

Q 更に高騰した際の対応は。

A 今後、原油高や円安などにより
食材価格がさらに上昇すること
も考えられる。その時は、学校給食会
には小松市学校給食費調整基金があり、
基金を取り崩して保護者に追加負担を
求めない対応をしていきたい。

◆こども園等給食物価高騰対策費

Q 対策内容は。

A 園によって主食を持参する園も
あるが、保護者には給食のおか
ず、おやつ代等の
費用としての副食
費を負担いただい
ている。今回の対
策については、物
価高騰に伴う副食
費の一部を助成す
ることで家計負担
の軽減を図る。



Q 高騰影響額は。

A 国の制度における副食費の基準
月額4、500円に対し、学校
給食と同様の5%を見込み、令和5年
3月分までで1、000万円を予算措
置した。

Q 一人当たりの負担軽減に繋がる
給食支援額は。

A 一人あたりの基準月額4、50
0円の5%となるので225円
となる。私立こども園のゼロ歳から5
歳のすべての子供約3、600人、公
立こども園で約280人に支援する。

Q 他自治体の取組は。

A 金沢市以南の他市の状況として
は、金沢市と野々市市が6月補

正でこども園等に支援を行う予定と聞
いている。

本市ではさらに原油価格高騰対策と
してこども園、保育園、幼稚園などを
含む社会福祉施設等に対し、送迎用車
両の支援も行い、保育環境の整備や成
長に応じた質の高い教育など、子ども
たちの健やかな成長と希望ある未来に
向けて応援したいと考えている。

◆無党派



木下裕介 委員

◆プレミアム付商品券発行費

Q 前は100%のプレミアム率
であったが3回目となる今回は
30%。その理
由は。

A より多
くの地
域消費を促す
ため、30%に
したこと、
発行額は前回
の約2.5倍
にできた。



Q 円安や物価高などがあり、経済
対策は必要。4回目の発行も含
めた今後の考えは。

A 地域経済の状況あるいは国や県
の動向を踏まえて、適切なタイ
ミングで効果的な経済対策を検討して
いきたい。



橋本米子 委員

◆博物館・美術館の環境整備費について
Q 博物館管理運営費(2、262
万円)の内容及び入館者数につ
いて。

A 配信等の環境整備、感染対策に
必要な機材購入を行う。入館者
数は概ね年間6千〜7千人。

Q 宮本三郎美術館管理運営費(3
80万円)、尾小屋鉱山資料館
管理運営費(780万円)の内容は。

A 宮本三郎美術館は配信環境整備
等、尾小屋鉱山資料館は空調機
器更新等を実施。

Q 博物館及び尾小屋鉱山資料館の
今後の在り方を問う。

A 公共
施設
マネジメン
トの方針に
従い検討し
ている。



小松市立博物館

常任委員会 審査報告

予算決算

委員長 高野哲郎
副委員長 川崎順次
全議員所属

議案第35号 令和4年度小松市一般会計補正予算(第1号)について

■不妊・不育治療支援費(800千円)

一般不妊治療費助成における所得制限を撤廃することで助成対象者を拡大し、子どもを希望する方々の経済的負担を更に軽減し安心して治療を受けられる環境を整える費用です。生殖補助医療においては、より効果的な助成制度を検討中とのことです。年齢制限の緩和を望む意見や婚姻届を提出していないが事実上の婚姻関係にある方も対象となるよう検討して欲しいという意見がありました。

■学校給食物価高騰対策費(20,000千円)

栄養バランスや量を確保しつつ、物価高騰による学校給食費への影響額を、学校給食を運営している学校給食会へ助成するものです。更に食材費が高騰した場合には、学校給食費調整基金を取り崩して支出し、保護者に追加負担を求めずに対応するとの答弁がありました。

学校給食について、地産地消の観点からも、今年度から米飯の割合を

高めて実施しているということですが、一部の委員からは、更なる地産地消や家庭でパンを食べる機会が多いことを考慮すると、給食では更に米飯を増やした方が良いのではないかという意見が出されました。

■遊泉寺銅山跡振興費(500千円)

4月に採納された寄附金を、寄附者のご意向により、遊泉寺銅山の振興に活用するものであります。

遊泉寺銅山は、遊歩道や拠点施設(里山みらい館)も整備され、魅力的な観光地に成長しております。寄附はありがたいことであり、このような応援を機に、同地域にある石切り場跡地などと合わせて更に観光としての価値を高め、市が誇れる観光ルートの1つになるよう検討することを求めました。

■博物館管理運営費(22,620千円)

ウィズコロナに対応した感染対策機材の購入や情報発信力強化の環境整備に係る費用です。

小松城に関する解説パンフレット配布など情報発信に努めているとのことですが、近年問い合わせも多く寄せられていることから、今更以上工夫した展示を求める意見がありました。

■スキー場整備費(13,500千円)

令和4年3月の暴風による山頂施設

設の屋根、外壁等の破損に係る修繕費です。

修繕対象のホットハウスは、通年利用時の休憩施設として、また冬期の一時避難所として使用される基幹施設ですので、速やかな対応を求める意見がありました。

スキー場の運営は、降雪等天候に影響されやすいので、来月オープンする西尾地区滞在交流施設「オーフ観音下西尾」なども連携し、里山全体の誘客につなげ、地域の活性化に努めてほしいとの意見がありました。

また、リフト券やレンタルスキー等の支払いの際、一部電子マネー対応可能とのことであり、利用者の利便性を考慮し、電子マネー利用を推進してほしいとの意見がありました。

議案第39号 専決処分の承認を求めぬことについて

■ひとものびり科学館管理運営費

コロナ禍による来館者の減少、イベント等の中止により、歳入では観覧料や使用料の減収、歳出ではイベント委託費や講師報償費などを減額するものです。

今年度改めてテナント募集を行う予定とのことですが、ギャラリースペースを活用した店舗を検討してはどうかとの意見があり、多くの来店者を期待する意見が出されました。

■SDGs未来都市推進費(△6,800千円)

こまつ環境パートナーシップの活動の一部が新型コロナウイルス拡大の影響により中止になったことに伴う負担金精算に係る費用と、こまつ里山SDGs倶楽部の事業内容の確定に伴う、補助金の減額費用であります。

こまつ環境パートナーシップの負担金について、使用に一部制約があるとの意見があるので、活発に活動している団体を後押しできるよう、考慮してほしいとの意見がありました。

■報告第10号 法人の経営状況の報告について

公益財団法人小松市まちづくり市民財団の報告です。この法人は指定管理者制度に基づいた施設の管理や補助金・交付金を受けた施設管理、地区体育施設の管理運営といった一部委託を受けて実施する事業のほか、スポーツフェスティバルの開催やアスリート育成事業といったスポーツ振興事業等を実施しております。

市民財団の職員構成について、若い職員が少なく臨時・嘱託職員が多くなっている状況を鑑みて、これから組織の中核となる職員の計画的な育成が必要ではないかという意見が出されました。

